



平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年8月5日

上場会社名 北日本紡績株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3409 URL http://ktbo.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)仲治 文雄
 問合せ先責任者 (役職名)取締役総務部長 (氏名)西川 康一 (TEL) 076(277)7530
 四半期報告書提出予定日 平成28年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第1四半期の業績(平成28年4月1日～平成28年6月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	125	—	△2	—	1	—	△0	—
28年3月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	△0.04	—
28年3月期第1四半期	—	—

(注) 当社は、平成28年3月期第1四半期は連結業績を開示しておりましたが、当第1四半期より非連結での業績を開示しております。そのため、平成28年3月期第1四半期の経営成績(累計)及び対前年同四半期増減率については記載していません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第1四半期	1,206	424	35.2
28年3月期	1,261	450	35.7

(参考) 自己資本 29年3月期第1四半期 424百万円 28年3月期 450百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
29年3月期	—	—	—	—	—
29年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	260	—	4	—	3	—	4	—	0.32
通期	530	12.5	15	230.5	12	—	12	238.7	0.97

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注1) 業績予想の修正につきましては、本日発表の「非連結決算への移行及び平成29年3月期業績予想に関するお知らせ」をご覧ください。

(注2) 平成28年3月期1四半期は連結業績を開示していたため、平成29年第1四半期(累計)の対前年同四半期増減率については記載していません。

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期1Q	12,911,000株	28年3月期	12,911,000株
② 期末自己株式数	29年3月期1Q	558,900株	28年3月期	558,900株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期1Q	12,352,100株	28年3月期1Q	12,352,607株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料2ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

2. 当社は、当社の連結子会社でありましたキタボー興産株式会社及び株式会社リック・コーポレーションが前事業年度に清算手続を開始したことにより、重要性が乏しくなったため連結の範囲から除外し、当第1四半期累計期間より非連結決算へ移行しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(3) 追加情報	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期におけるわが国経済は、輸出が増加したものの、個人消費に改善が見られず、設備投資が円高や中国経済の影響を受け、不透明感が台頭し力強さを欠いた状態が続いております。

(繊維事業)

繊維景況は、衣料用途では国内向けが全般的に低調で、中東向け民族衣装用など好調だったテキスタイル輸出も、円高の進行で不透明感が出てきております。ユニフォーム・ワーキング用は備蓄が低調、ブラックフォーマルも主力の百貨店向けが低調でした。保温肌着用は暖冬の影響を受け、店頭販売が盛り上がりせず、短繊維アクリルの出荷量も前年を下回りました。インテリア用途はカーペットがオフィス向けなどで好調に推移しましたが、車両用、カーテン向けは苦戦が続いております。衛材・生活資材用途は中国向け紙おむつの製品輸出が好調を維持しております。

産業資材用途はエアバックの減速、タイヤコード用も織物や強力糸の輸入が増加し、ポリエステル製品は海外調達が大半を占めております。カーシート用は自動車生産の停滞や合成皮革の浸食もあり苦戦が続いておりますが、建築資材関係は検討しているようです。

当社では、4月の九州熊本地震の影響で、数社の紡績工場が一時停止状態になったため、受注件数及び引合い数量は非常に多くなりました。しかし、納期対応や小ロットでの対応を余儀なくされたため、生産効率が低下し、予定していた生産数量及び売上を上げることができませんでした。

特に、産業資材分野の主力商品であるアラミド繊維は資材用途向け別注品の受注が減少したため、受注数量は減少し、高機能インナー向け紡績糸の受注も前年暖冬の影響を受け、受注は減少しました。また、新規取引先を獲得することにより、アクリル素材及びポリエステル素材の受注生産が増加し、繊維事業の当四半期の業績は、売上高124,737千円、営業損失681千円となりました。

(環境事業)

平成27年12月より新規事業として環境事業を立ち上げました。当事業は、主力商品「カラム」(特殊パウダー入りポリエチレン)及び同商品を組み込んだ商品を販売することを主たる業務としております。さらに4月よりカルファケミカル社のカルファバス(クーリングタワー水処理剤)、カルファサット(冷却水藻類・スライム・レジオネラ抑制剤)を販売開始いたしました。これらの商品を機能的に組み合わせることにより、水処理に係る塩素臭・スケール・スライム等の諸問題を解決し、あわせて水・燃料の節減が可能となります。また、今期より北陸先端科学技術大学院大学と共同研究契約を締結し、「カラム」の高分子材機能の解析と高性能化に着手しております。

販売先として、フィットネスクラブ・スーパー銭湯温浴施設・病院介護施設・機械工場を主として幅広く営業活動をしております。しかしながら、これら取引先に対しては、試験導入により効果を確認して進めており、取引先は着実に増加しているものの、当第1四半期の売上には寄与しておりません。従って、環境事業の当四半期の業績は、売上高868千円、営業損失1,712千円となりました。

以上の結果、当社の業績は、売上高125,605千円、営業損失2,394千円、経常利益1,127千円となり、特別損失に投資有価証券売却損2,071千円を計上した結果、四半期純損失は470千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

総資産は、前事業年度末と比べ55,068千円減少し、1,206,431千円となりました。この減少の主な要因は、保有株式の時価が下落したこと等により投資有価証券が45,317千円減少したこと等によるものであります。

負債は、前事業年度末と比べ29,085千円減少し、782,319千円となりました。この減少の主な要因は、投資有価証券の減少等により繰延税金負債が11,540千円、買掛金が8,102千円、短期借入金が4,500千円、それぞれ減少したこと等によるものであります。

純資産は、前事業年度末と比べ25,982千円減少し、424,111千円となりました。この減少の主な要因は、保有株式の時価下落により、その他有価証券差額金が25,512千円減少したこと等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当事業年度の業績予想につきましては、本日発表いたしました「非連結決算への移行及び平成29年3月期業績予想に関するお知らせ」に記載のとおり、平成29年3月期第1四半期決算より非連結決算へ移行することに伴い、連結業績予想から個別業績予想に変更しております。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(3) 追加情報

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期会計期間から適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前事業年度にマイナスの営業キャッシュ・フローを計上し、当第1四半期は営業損失を計上していることから、安定的に営業利益を計上しうる業績基盤の確立は途上にあり、継続企業の前提に関する重要な疑義が存在しております。

当社は、当該状況を解消すべく、製造コスト・販売費及び一般管理費の更なる削減及び生産工程の効率化に取り組みながら、受注量の確保を喫緊の課題として取り組んでおります。

繊維事業につきましては、人員の若返り化を図りながら、技術のスムーズな継承及び生産効率の意識改革に取り組み、品質向上と無駄のない生産を目指して全体的な生産増加に努めます。また、受注面では、基幹商品であります高機能糸(産業資材向け・インナー向け)の生産を確保しつつ、既存の防護衣料分野の生産品種拡大に加え、新しい分野、用途の素材を模索してまいります。更に、新規取引先の開拓を進め、自社独自の商品開発も同時進行で取り組んでまいります。

環境事業につきましては、北陸先端技術大学院大学ナノマテリアルテクノロジーセンター助教理学博士島原秀登氏を当社の技術アドバイザーとして招聘し、共同研究を進め、カラムの高機能化を図り事業発展に努めてまいります。

しかしながら、これらの対策は実施途上であり、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、財務諸表は継続企業を前提として作成されており、上記のような不確実性の影響を財務諸表には反映しておりません。

4. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,236	16,827
受取手形及び売掛金	57,275	48,353
商品及び製品	3,765	9,391
仕掛品	7,007	3,590
原材料及び貯蔵品	14,779	8,149
その他	4,212	10,402
流動資産合計	110,275	96,715
固定資産		
有形固定資産	810,215	813,307
無形固定資産	252	951
投資その他の資産	340,755	295,458
固定資産合計	1,151,223	1,109,716
資産合計	1,261,499	1,206,431
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	19,691	11,786
短期借入金	499,000	494,500
未払費用	7,374	6,451
未払金	15,577	18,603
未払消費税等	4,361	4,468
未払法人税等	2,223	968
賞与引当金	6,833	2,808
設備関係支払手形	2,700	-
その他	5,218	6,037
流動負債合計	562,979	545,624
固定負債		
リース債務	4,485	4,070
繰延税金負債	38,429	26,888
退職給付引当金	6,010	6,235
再評価に係る繰延税金負債	199,501	199,501
固定負債合計	248,425	236,695
負債合計	811,405	782,319

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成28年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	714,000	714,000
資本剰余金	1,257	1,257
利益剰余金	△686,157	△686,628
自己株式	△52,263	△52,263
株主資本合計	△23,164	△23,634
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	26,621	1,109
土地再評価差額金	446,636	446,636
評価・換算差額等合計	473,258	447,746
純資産合計	450,094	424,111
負債純資産合計	1,261,499	1,206,431

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	当第1四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	125,605
売上原価	100,991
売上総利益	24,613
販売費及び一般管理費	27,008
営業利益	△2,394
営業外収益	
受取配当金	5,207
その他	3,542
営業外収益合計	8,750
営業外費用	
支払利息	3,835
その他	1,392
営業外費用合計	5,227
経常利益	1,127
特別損失	
投資有価証券売却損	2,071
特別損失合計	2,071
税引前四半期純利益	△943
法人税、住民税及び事業税	134
法人税等調整額	△606
法人税等合計	△472
四半期純利益	△470

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社は、前事業年度にマイナスの営業キャッシュ・フローを計上し、当第1四半期は営業損失を計上していることから、安定的に営業利益を計上しうる業績基盤の確立は途上にあり、継続企業の前提に関する重要な疑義が存在しております。

当社は、当該状況を解消すべく、製造コスト・販売費及び一般管理費の更なる削減及び生産工程の効率化に取り組みながら、受注量の確保を喫緊の課題として取り組んでおります。

繊維事業につきましては、人員の若返り化を図りながら、技術のスムーズな継承及び生産効率の意識改革に取り組み、品質向上と無駄のない生産を目指して全体的な生産増加に努めます。また、受注面では、基幹商品であります高機能糸（産業資材向け・インナー向け）の生産を確保しつつ、既存の防護衣料分野の生産品種拡大に加え、新しい分野、用途の素材を模索してまいります。更に、新規取引先の開拓を進め、自社独自の商品開発も同時進行で取り組んでまいります。

環境事業につきましては、北陸先端技術大学院大学ナノマテリアルテクノロジーセンター助教理学博士島原秀登氏を当社の技術アドバイザーとして招聘し、共同研究を進め、カラムの高機能化を図り事業発展に努めてまいります。

しかしながら、これらの対策は実施途上であり、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、財務諸表は継続企業を前提として作成されており、上記のような不確実性の影響を財務諸表には反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離した財務情報が入手可能であり、当社取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社の事業は、繊維事業及び環境事業を報告セグメントとしております。繊維事業は、主に合繊紡績糸の製造及び販売を行っております。環境事業は、主に水質浄化システム及び省エネルギー装置の販売を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、財務諸表の作成上採用した方法と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前第1四半期累計期間（自平成27年4月1日 至平成27年6月30日）

当社の事業は、紡績糸の生産・販売及びこれらの付随業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第1四半期累計期間（自平成28年4月1日 至平成28年6月30日）

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	繊維事業	環境事業	
売上高			
外部顧客への売上高	124,737	868	125,605
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
セグメント利益	△681	△1,712	△2,394
セグメント資産	1,200,322	6,108	1,206,431
セグメント負債	782,183	135	782,319
その他の項目			
減価償却費	471	38	510
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	3,995	305	4,300

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

前第1四半期累計期間（自平成27年4月1日 至平成27年6月30日）及び当第1四半期累計期間（自平成28年4月1日 至平成28年6月30日）

該当事項はありません。